

金融緩和政策がもたらす国内銀行への影響

経済調査部 副主任エコノミスト 小池 理人(こいけ まさと)

金融緩和政策による副作用が注目される

2013年に量的・質的金融緩和が導入されてから5年が経過しました。大規模な金融緩和政策は株価の上昇や雇用環境の改善など日本経済に対して大きな効果を発揮しましたが、一方で金融緩和政策の副作用も見られるようになりました。特に、国内金利の低下(資料1)がもたらす国内銀行への影響は、金融緩和政策の副作用として注目を集めています。

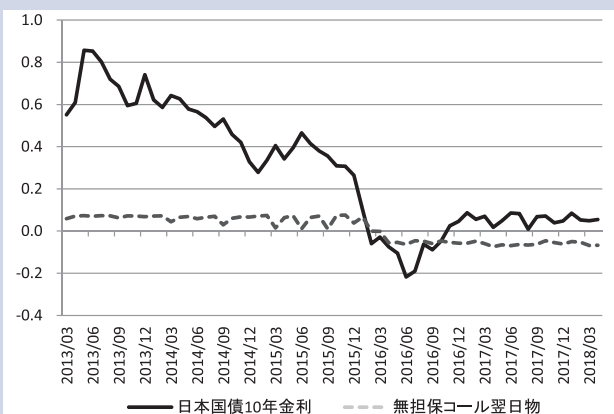
低金利がもたらす国内銀行への影響

銀行のビジネスモデルの中心は預金等によって調達した資金を貸出や日本国債をはじめとする有価証券によって運用することですが、金融緩和政策による国内金利の低下によって調達資金を運用することが難しくなっています。

そのような中で、国内銀行は日本国債から現金預け金への資金シフトを進めています(資料2)。2013年4月の異次元緩和政策導入以降、日本国債の利回りは低下を続け、国内銀行は日本国債の保有残高を減らしました。日本国債減額分の多くは現金預け金となりましたが、国内銀行は資金を貸出の増額にも向けました。しかし、国内金利低下に伴い貸出金利も低下を続け(資料3)、銀行が貸出から得る利益も減少傾向にあります。

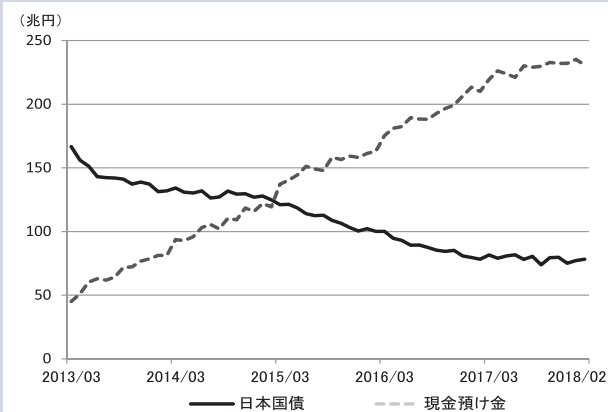
黒田日銀総裁は、「金利を下げすぎると、預貸金利鞘の縮小を通じて銀行部門の自己資本制約がタイト化し、金融仲介機能が阻害されるため、かえって金融緩和の効果が逆転する」という「リバーサル・レート」の考え方について言及しています。黒田総裁は現時点では金融仲介機能は阻害されていないとしながらも、低金利環境が金融機関の経営体力にもたらす影響は累積的なものであるとも発言しており、5年に及ぶ金融緩和政策がこの先経済全体にどのような影響をもたらすか、どのように金融政策の舵取りがなされるのが注目されます。

資料1 日本国債金利及び無担保コールレートの推移



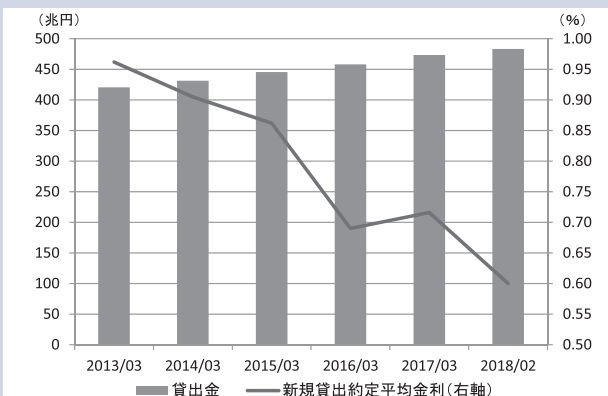
(出所)日本銀行「短期金融市場金利・コールレート」、Bloomberg

資料2 国内銀行の日本国債及び現金預け金残高の推移



(出所)日本銀行「民間金融機関の資産・負債等」

資料3 国内銀行の貸出残高及び貸出金利の推移



(出所)日本銀行「民間金融機関の資産・負債等」「貸出約定平均金利」